

INDEX 目次

ブルガリア共和国シリストラ市 訪問団が来訪……………	P ①・P ②
シリストラ市を訪問……………	P ②
フィリピン共和国 バコール市へ学用品を寄贈……………	P ③
フィリピン料理教室を開催……………	P ④
ブルガリア料理教室を開催……………	P ④
トルコ・シリアへ地震救援金……………	P ④
役員紹介……………	P ④
会員募集のお知らせ……………	P ④
編集後記……………	P ④

桜川市 国際交流協会

SIFA



ブルガリア共和国シリストラ市訪問団が来訪

桜川市とブルガリア共和国シリストラ市は、平成28年9月に友好交流都市協定を締結し、互いの市の訪問等を通して交流を深めてきました。新型コロナウイルスの影響により、これまで続けてきた交流を一時的に中断する状況となっていました。令和5年4月、4年ぶりにシリストラ市訪問団を本市に招待し、SAKURA フェスティバルや市内の視察等を通して互いの理解を深め、友好を再確認しました。(詳細は次ページをご覧ください)

友好交流都市事業

ブルガリア共和国シリストラ市訪問団が来訪

令和5年4月14日から18日

シリストラ市訪問団が桜川市を訪れるのは、今回が4年ぶり4回目です。訪問団はユリヤン・ナイデノフ市長をはじめとする6名で構成され、市内各所を視察しました。

訪問団は令和5年4月14日夜に到着。15日は交流のきっかけとなった岩瀬石彫展覽館（亀岡地区）の浅賀氏を訪問し、富谷地区の桜を鑑賞した後、歓迎レセプションに参加しました。歓迎レセプションでは真壁白井座による人形浄瑠璃が披露され、日本の伝統文化に触れました。16日は、SAKURA フェスティバルや市内の空手道場訪問、そば打ち体験を通して市民と交流しました。また、市内酒造のひな飾り鑑賞や雨引山楽法寺での護摩祈祷に参加しました。日本滞在最終日には、ブルガリア共和国特命全権大使のマリエタ・アラバジエヴァ氏を表敬訪問し、今回の桜川市訪問の報告や今後の両国の関係進展についての意見交換を行いました。



▲ SAKURA フェスティバルで各出店を見学



▲ 空手道場での子供たちとの交流



▲ 駐日ブルガリア共和国大使館での意見交換

ブルガリア共和国シリストラ市を訪問

令和5年9月11日から16日

「シリストラの日」の式典への招待を受け、桜川市副市長をはじめとする5名の訪問団がシリストラ市を訪問しました。

滞在初日は在ブルガリア共和国日本国大使館の奈良平特命全権大使を訪問し、ブルガリアの産業や経済、教育文化、また日本との関わりについての説明を受け、今後の交流についての意見交換を行いました。滞在2日目はシリストラ市役所にて行われた友好交流都市間の交流式典に参加しました。会場にはシリストラ市の友好交流都市であるキキング市（セルビア）、カララシ市（ルーマニア）、チェハヌフ市（ポーランド）の各市長や担当者が集まり、ナイデノフ市長の下、各市の紹介や交流状況、これからの互いの取り組みについての意見交換が行われました。また、市内の歴史遺産やドナウ川、ルーマニア国境を視察し、市の産業や文化について説明を受けました。滞在3日目の9月14日は「シリストラの日」で、市内の教会で行われたミサや、同市議会による式典に参加。その後、中央広場にて桜川市副市長が会場に集まった市民に向けて挨拶をしました。会場には大勢の市民が集まり、盛大な歓迎を受けました。最終日には市内の幼稚園と中等教育学校を視察。世界で導入が進む先進的な教育プログラムであるSTEM教育（※）に関する考えを学びました。最後に行われたナイデノフ市長との会談では、今後は子供たちなどの市民間交流を検討していきたいとの考えが述べられました。

※ STEM 教育…科学・技術・工学・数学を横断的に学ぶことで、考える力や問題解決能力を養う教育。



▲ 各国から集まった友好都市との交流式典



▲ 「シリストラの日」の式典での副市長挨拶



▲ 中等教育学校の教室や体育施設を視察

桜川市とフィリピン共和国バコール市は平成30年5月に友好交流都市協定を締結し、両市の小学生がオンラインで英会話交流を行っています。

令和5年12月、関係団体の協力の下、桜川市内で寄付を募った学用品の寄付贈呈式に出席するためバコール市を訪問しました。滞在初日は在フィリピン日本国大使公邸で越川特命全権大使を表敬訪問しました。大使からはフィリピンの産業や経済、教育文化、また日本との関わりについての説明を受けました。桜川市からはバコール市との交流について報告し、今後の交流についての意見交換を行いました。滞在2日目はバコール市のバヤナン小学校を訪問し、桜川市とバコール市の英会話交流の様子を視察しました。両市の小学生がビデオ通話を使って英語で自己紹介をし、その後バヤナン小学校の児童による民族ダンスが披露されました。英会話だけでなく、お互いの学校の様子や文化を学ぶ児童の姿、良好な通信環境を確認することができました。その後、バコール市役所にて執り行われた学用品寄付贈呈式に出席し、ストライクバコール市長に学用品の一部を直接寄贈しました。ストライク市長から今回の寄付についての謝辞が述べられ、バコール市の子供たちの教育に活用していくことが伝えられました。



▲大使公邸での意見交換



▲ストライク市長へハンドセルを贈呈



▲両市の英会話交流を視察

学用品寄贈まで

平成31年から令和2年にかけて、桜川市内で学用品の寄付を募りました。寄付品はランドセル、ノート、筆記用具、楽器類で、市内で集められたものに加えて、県西地区女性ネットワーク委員会OG有志の皆さんが県西地区の小中学校PTAの方々より寄付を受けた学用品も含まれています。新型コロナウイルスの影響で寄贈できない状態が続いていましたが、コロナ禍の終息を受け、今年度の7月に梱包作業を行い、11月に集荷、12月にフィリピンに到着しました。

寄付にご協力いただいた皆様、梱包・集荷にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

寄付品の内容

ランドセル 428 個、筆記具 1545 本、ノート 759 冊、マーチングドラム・ピアノカなどの楽器類 706 個、チョーク 1100 本、絵本 612 冊



▲寄付品の一部。
バコール市はマーチングバンドが盛んなため
マーチングドラム等の楽器も寄付品として贈りました。



▲協会の有志の方と梱包作業



▲段ボール79箱分の学用品を港へ



▲県西地区女性ネットワーク委員会OG有志の方に集荷にご協力いただきました。

異文化理解促進事業

桜川市と交流のある国の文化を学ぶことを目的として、フィリピン及びブルガリアの料理教室を行いました。

フィリピン料理教室を開催 令和5年10月15日



▲食事をしながらフィリピン文化についての説明を受けました

フィリピン出身の井上マリアさんを講師として招き、同国の料理作りと文化紹介を行いました。井上さんは日本在住歴31年で、以前に4年間桜川市でALT(外国語指導助手)として勤務経験があり、現在は筑西市でカフェ経営と英会話講師をされています。

当日は17人が参加し、講師の指導の下、「バナナの春巻き」「春雨焼きそば」「鶏肉のスープ」の三種類の料理作りを体験しました。参加者は、初めてのフィリピン料理作りや完成した料理の試食を楽しんでいました。また、講師からのフィリピン文化や習慣についての紹介では、質疑応答も交えて楽しい時間を過ごし、「島によって文化の違いがあり面白かった」との感想が聞かれました。

ブルガリア料理教室を開催 令和6年1月28日

ブルガリア出身のアントニオ・アンゲロフさんを講師として招き、同国の料理作りと文化紹介を行いました。アントニオさんは日本在住歴10年で、講師や通訳、俳優、タレント業など幅広い分野で活躍されています。今年度ブルガリアのシリストラ市が桜川市を来訪した際は、通訳としてご協力いただきました。

文化紹介では同国が世界最大のバラの生産国となった歴史的背景や恵まれた気候風土であること。また、日本で馴染み深いヨーグルトや同国出身の相撲で活躍した琴欧州についての話など、写真や映像を交えて紹介されました。料理教室では、「ワインステーキマッシュルーム添え」「ブルガリア風目玉焼き」バラのジャムを使った「水切りヨーグルトのデザート」の調理を行いました。参加者からは、「簡単に作れておいしい」「また参加したい」などの声もあり有意義な時間が過ごせました。



▲ブルガリアの伝統衣装で料理作りを行う講師のアントニオさんと参加者の皆さん

トルコ・シリアへ地震救援金

令和5年5月、桜川市国際交流協会から茨城新聞文化福祉事業団を通して、トルコ・シリアへ地震救援金を送りました。ご賛同いただきました会員の皆様、ありがとうございました。

桜川市国際交流協会 役員紹介

会長	大塚 秀喜
副会長	大関 隆司
	風野 和規
理事	皆川 光吉
	渡辺 義光
監事	萩原 剛志
	金子 元則
顧問	浅賀 正治
	下条 豊

会員募集のお知らせ

桜川市国際交流協会は、国際相互理解の増進等を目的として、会員の皆様のご支援とご協力により運営されています。当協会では会員を随時募集しています。会報紙やホームページをご覧ください趣旨にご賛同いただける方は、ぜひ会員にお申込みください。

会員情報

個人会員	38人
法人会員	30法人
団体会員	7団体



▲過去の国際交流事業
(桜川市 HP)

会費

個人会員	1,000円
※高校生以下は免除	
法人会員	1口5,000円以上
団体会員	1口5,000円以上

編集後記

今年度は新型コロナウイルスによる制限がなくなったことから、中止していた友好都市との交流を再開することができました。友好関係を再確認し、新たな交流に向けたスタートを切れたことを嬉しく思います。来年度も引き続き友好交流都市との交流や外国文化講座を開催しながら、在住外国人との交流・共生事業にも力を入れていく予定です。(事務局)

発行元

桜川市国際交流協会事務局(桜川市企画課)
〒309-1293 桜川市羽田1023番地
TEL: 0296-58-5111(代表)
FAX: 0296-58-5082
E-mail: international@city.sakuragawa.lg.jp



©桜川市